

「とっとり評判記」

第12話

なんでも

かわら まち だいてい えん
消えた瓦町の大庭園



やまびこ博士：ここは、太平公園。最近、地元の人と大学生などボランティアの人たちが中心になって作りなおした公園だよ。

こだまちゃん：小さいけど、きれいな公園ね。

やまびこ博士：ここは昔は、「衆楽園」という、とても大きな遊園地の一部だったんだ。これを見てごらん。

こだまちゃん：ずいぶん古い絵ね。

やまびこ博士：これは、明治5年頃のこのあたりを描いた「引札」だよ。今でいうとパンフレットみたいなものかな。

こだまちゃん：なんだか賑やかそうですね。

やまびこ博士：真ん中に大きな池があって、その周りに芝居小屋や暮会所・将棋場、弓を射る場所などがある。馬に乗っていろいろな芸を見せる「曲馬」などというものもあるね。

こだまちゃん：今でいうと、劇場とサーカスとゲームセンターとスポーツジムが全部集まっているようなものね。

やまびこ博士：そのうえ、池の周りには庭石や庭木があって、桜の名所としても知られていた。ここはもともと、鳥取藩主などが別宅として使っていた場所で、それにふさわしい、大きく美しい庭園だったんだ。

もちろん、その頃はまだ、ここに描かれているようなものはなく、閑静な場所だった。明治になって藩がなくなってから、藩主の遊び場がみんなの遊び場になったというわけだ。江戸時代、鳥取ではこういった遊び場を作ることは禁止されていたから、とても新鮮だった。夢中になるあまり仕事や学校を放り出して通いつめるような人まで出てきて、当時の県から、芝居上演や夜間営業を禁止されてしまうほどの賑わいだったんだよ。

こだまちゃん：それがどうして、今は、なくなってしまっているの？

やまびこ博士：明治6年の火事で、江戸時代以来の建物も含めてほとんどが焼けてしまった。その後次第に池も埋まり、遊園地としての姿は失われたんだよ。

こだまちゃん：なんだか、この絵の場所に行ってみたい気がしますね。

<やまびこ博士からのお知らせ> 鳥取市歴史博物館では企画展覧会「城下町とっとり まちづくりのあゆみ」を開催中(～5月9日まで)。「なんでも評判記」に書ききれない、鳥取の町の歴史について展示しています。ひよっとすると、やまびこ博士に展示室で会えるかも。

【佐々木孝文(鳥取市歴史博物館学芸員)】